

## 目次

SUMMARY	i
序論	1
第1章 <u>Holy Man</u> の“G”について	4
第2章 <u>The Legend of Bagger Vance</u> の Bagger Vance について	11
第3章 <u>The Green Mile</u> の John Coffey について	20
第4章 3作品の共通点	28
第5章 両極端なハリウッドの黒人像	33
結論	38
文献一覧	iv

### 本文の字数

日本語の字数	27292 字
英語の字数	616 words
合計	27908 字

## SUMMARY

In modern Hollywood movies, various types of black male characters can be seen. In this thesis, I will deal with one of these types, represented by “G”, the main black character in HolyMan (1998), Bagger Vance in The Legend of Bagger Vance (2000), and John Coffey in The Green Mile (1999), who all influence white heroes. They play supporting characters who act somewhat eccentricly. I will focus on these black men who support white heroes in a mysterious and supernatural way.

In Chapter I, I will examine “G”, who appears in Holy Man. In this movie, “G” suddenly appears before Ricky Hayman, who is the white hero. Ricky is a producer of a television shopping program. He tries to feature “G” on Ricky’s TV show, which had not been very popular until then. “G” charms people with his strange narrative and actions. As a result, Ricky’s show and his life improve. “G” is elusive and unidentified, has the power to charm people, and supports the hero.

In Chapter II, I will analyze Bagger, who appears in The Legend of Bagger Vance. One night, Bagger suddenly, emerges out of the dark before Rannulph Junuh, who is the white hero. Junuh used to be a skilled golfer, but when he comes back from World War I, he has lost his self reliance and his confidence in his golfing ability. However, supported by the accurate advice of Bagger, a strange, volunteer caddie, Junuh recovers his confidence in life and golf. Bagger is also elusive and unidentified, has the power to give mysterious but apt advice.

In Chapter III, I will analyze John Coffey, who appears in The Green Mile. He comes to a prison as a prisoner on death row. Paul Edgecomb is the white hero who is a guard in the prison. John has various mysterious powers. John cures Paul's disease with his power, has the power to feel other people's pain, and has the ability to know a man's past by touching the man's hand. John's strange power influences Paul's philosophy and life. John has mysterious past, has the power to heal people and live only to help other people.

Chapter IV focuses on the similarities in the above black male characters. They have three things in common: they are elusive and unidentified; they are people who have strange powers; and a dedication to the white hero. They are portrayed not as normal humans, but as an existence like "the Saviour of absolute good." They have the ability to use powers which normal people do not have, and they are also represented as people who steer the white heroes in a better direction.

In Chapter V, I will survey the history of African-American people, and I will consider what the above black male characters imply. In America, blacks were treated as slaves by white people. For many years afterward, they went through segregation and indifference in American society. Many whites were apt to see blacks as "lower than human." However blacks gradually began to be accepted in American society, and they began to appear in Hollywood movies also.

In American history, whites once saw blacks as "lower" than themselves. On the other hand, in modern

Hollywood movies like Holy Man, The Legend of Bagger Vance, and The Green Mile, whites see blacks as being on a “higher” level than whites. From the white people’s point of view, blacks vary from one extreme to another, from “slave” to “god-like” through the years. However both “slave” images and “god-like” images suggest that black people are “strangers.” That is to say, the above black male characters show that even today, whites still see black men as “strangers.”

## 序論

現代ハリウッド映画では、黒人俳優が主役や重要な人物として登場する作品が当たり前のように製作され、様々な黒人像が描かれている。その中のひとつで、本論で扱う黒人像は、作中で白人主人公やストーリーへの影響力がある脇役として描かれている。例として Bruce Almighty(邦題『ブルース・オールマイティ』、2003年)や The Family Man(『天使がくれた時間』、2000年)が挙げられる。本論では、こうした中で特に Holy Man(『ホーリーマン』、1998年)、The Legend of Bagger Vance(『バガー・ヴァンスの伝説』、2000年)、The Green Mile(『グリーンマイル』、1999年)の3作品を取扱い、それぞれの作品に登場する黒人に注目していく。

黒人はアメリカ建国以前から、ヨーロッパからやってきた白人植民者によって奴隷として扱われていた。そして南北戦争後に奴隷解放となり自由黒人となってからも、黒人は白人から受ける人種差別や社会的格差と闘い続けてきたという長い歴史がアメリカにはある。それを反映するかのように、20世紀に入ってから誕生したハリウッド映画においても黒人は白人女性に暴行するような「悪」として登場し、奴隷のように服従し、白人を惹きたてる存在として描かれることがしばしばあった。しかし時を経て、本論で扱う現代の黒人像は白人主人公にとって必要不可欠な絶対的「善」の存在として描かれている。この黒人像の変化や彼らの性質や役割、そして存在意義について私は強い関心を抱いた。「映画は、現実の人間社会を映し出す大鏡である」(井上 4)とされているように、本論で扱う黒人達も現実社会を映し出しているのだろうか。以下に3作品の簡単な紹介を記す。

Holy Man は Eddie Murphy (エディ・マーフィー)主演のコ

メディー映画である。テレビショッピング番組の担当者である主人公 **Ricky Hayman** (リッキー・ヘイマン以下、**Ricky**) は、業績不振で危機に陥っていた。ある日彼は、「巡礼の旅」をしているという謎の黒人男性“G”と出会う。“G”の人々を魅了する話術や存在感のおかげで、最終的に **Ricky** は生きる上で一番大切なものである愛する人の存在に気づく。

**The Legend of Bagger Vance** は **Robert Redford** (ロバート・レッドフォード) 監督により製作された映画である。アメリカのジョージア州サヴァンナで天才ゴルファーとして期待されていた青年 **Rannulph Junuh** (ラナルフ・ジュナ以下、**Junuh**) は、第一次世界大戦後、失意に陥り、ゴルフと人生をあきらめ墮落した生活を送る。謎の黒人男性 **Bagger Vance** (バガー・ヴァンス以下、**Bagger**) が現れ、彼が **Junuh** にアドバイスをしていくことによって **Junuh** はゴルフで再び自分自身を見出し、見事に人生の再起を果たすという物語である。

**The Green Mile** は **Stephen King** (スティーヴン・キング) 原作の同名小説が映画化されたものである。この物語は、1935年にアメリカのジョージア州にあるコールド・マウンテン刑務所に死刑囚としてやってきた黒人 **John Coffey** (ジョン・コーフィー以下、**John**) が主人公 **Paul Edgecomb** (ポール・エッジコム以下、**Paul**) を中心とする刑務所内外の人々に善悪双方の影響を与えていくフィクションである。

本論では、まず第1章において、**Holy Man** に登場する“G”の特徴を分析していく。第2章では **The Legend of Bagger Vance** の **Bagger Vance** の特徴を分析する。第3章では **The Green Mile** の **John Coffey** の特徴について見ていく。第4章では、第1章から第3章により導き出された共通する特徴と役割について考察していく。そして第5章では、映画における黒人像の変遷を概観し、3人の共通点と照らし比較していく。

現代ハリウッド映画に登場する黒人像の存在意義とはなん  
であろうか。また、彼らが現代アメリカにおいて示唆してい  
ることは何か、考察していきたい。

## 結論

これまで現代ハリウッド映画において多様化している黒人像の中でも、特に「特異な力」を持つ黒人に焦点をあて、彼らの特徴と彼らの存在が示唆することについて考察してきた。

本論では3作品を扱い、それらに登場する黒人男性に着目した。第1章では Holy Man に登場する“G”の特徴を分析し、①神出鬼没である、②人々を惹きつける力を持つ、③主人公を支えるという3つの特徴を持っていることを指摘した。第2章では The Legend of Bagger Vance の Bagger Vance の特徴について、①神出鬼没である、身元が不詳である、②不思議な力を持つ、③損得勘定がないという3つの特徴があるという分析を導き出した。第3章では The Green Mile の John Coffey に注目した。彼には①身元が不詳である、②不思議な力を持つ、③他者へ献身する、という3つの特徴があるということが明らかになった。

第4章では、第1～3章で分析した作品の共通点を黒人登場人物に焦点をあてて挙げた。その結果をまとめると以下のようになる。まず彼らは作品の中で、白人中心の世界に唯一の黒人として登場している。次にストーリーについては、突然現れた黒人男性が「特異な力」によって、白人主人公の内面や人生を転換させるという内容が共通している。そして3人の黒人には①神出鬼没である、身元が不詳である、②特異な力を持つ、③自分を顧みずに他者を助けるという3点の共通点がある。「特異な力」と「神格化」されたイメージを持つ一方、利己的な感情や出自など「個人情報」が欠如している彼らは、明らかに普通の「人間」として描かれてはいないという共通点があるといえよう。

第5章では、このような黒人像が何を示唆しているのかに



ついて考察した。まずアメリカ黒人の歴史とハリウッド映画における黒人像について概観した。それらは元々白人が白人のために製作した映画であり、黒人差別があるアメリカでは、そうした差別意識を反映して映画が製作されるものであることを指摘した。黒人キャラクターも白人によってステレオタイプ化された、「劣った」存在として描かれてきたのであった。

1900年から2000年代という100年の時を経る中で、黒人差別や人種間の格差が徐々に改善し、黒人の社会進出が進むにつれて、映画の中で描かれる黒人像も変化してきた。そして現代ハリウッド映画では黒人が映画の主役を飾ることも珍しくなくなり、多様な黒人像が見受けられるようになってきた。そうした時代に、本論で考察してきたような、「良い」黒人像が登場する。

初期のハリウッド映画の黒人キャラクターは極端に「白人より低い」レベルの人間として描かれた一方、現代ハリウッド映画は、黒人を「人間を超えるもの」として描いている。両者はかけ離れた存在に見えるが、白人とは異なるものとして描かれている点で共通する。

ハリウッド映画においてはその背景にあるアメリカ社会は、歴史的に白人中心であった。その中に、黒人が長い年月を経て徐々に進出し受け入れられてきたということは事実である。本論で扱った3作品のように黒人が「必要な人物」や「良いキャラクター」として登場するようになったことがその表れのひとつといえるであろう。しかし、本論で扱った作品と黒人像は、黒人を「異人」として意識する白人が現代もなお少なからず存在していることを示唆していると結論できよう。これらの黒人像は、黒人を受け入れるようになってきた現代アメリカ社会のあり方と、白人が未だにアメリカ社会の中で黒人を「他者」として認識しているという両面の事実を表しているといえる。